



南部町立南部中学校 学校だより 第12号

# 千一ム南部中

令和3年10月6日(水)

校長 望月和彦

## 輝城祭の中で生徒たちは何を学び 何を感じたか

第11回輝城祭を振り返り、成果と課題を次につなげるために、生徒たちは学級や学年、部門ごとに反省を行い、全員が作文を書きました。作文を読ませてもらうと、輝城祭の取り組みや当日の発表のなかで、生徒たちはたくさんのことを学び、感じたことがわかります。保護者やご家族の方々に輝城祭の様子を知ってもらうために、12人の生徒の作文を紹介します。(紙面の都合上一部、内容を省略させていただいたり、内容をわかりやすく修正させていただいたりした部分があります)

【1A市川瑛士さん】ぼくにとって初めての輝城祭がありました。(略)体育の部の練習では、体育部門担当としてみんなをまとめなければなりませんでした。上手にまとめることができなかつたり、同じ体育部門の人に任せたりしたこともあり。やっていくうちに役割にも慣れ、各競技の記録もだんだん良くなってきて嬉しかった。しかし、取り組みの途中では、みんなの雰囲気が悪くなつたり、ミスをしてしまった人への声かけがなくなつたりしました。話し合いもしましたが、前日もまた悪い雰囲気になってしまいました。帰りの会では今日の練習で思ったことを伝えてくれる人がいました。そして、当日。本番ではすごく良い結果が出せました。みんなが全力を振り絞ってできたし、一人一人が同じ気持ちで取り組めたからだと思います。前日の帰りの会で本音で思いを伝えてくれた人のおかげだと思います。ぼくは初めての輝城祭で、本番に向けての過程が大切なんだと思いました。とても良い思い出になりました。



【1A千頭和蓮さん】輝城祭の活動は、体育の部や演劇の練習、部門活動などたくさんありました。演劇では大道具の担当となり、部門は全校制作部門になりました。ともにアイデアを考えたり、考えたものをつくつたりすることが主な活動でした。最初は数人で考えてつくつたものが、本番が近づくにつれ、他の人たちがつくつたものと集結していきました。本番ではみんなで準備してきたものが一つにまとまり、努力の結果が出ていて良かったです。体育の部では、背中渡り、八の字跳びなど学級で行う種目があり、練習もたくさん行いました。士気が上がらないなどの課題があり、そのたびに話し合いを行いました。作戦なども考え、みんなが全力で練習ができるようになりました。その甲斐もあり良い結果を残すことができました。(略)今年の輝城祭で学んだ「横のつながりの大切さ」をこれからの生活に生かしていきたいです。



【1B望月新菜さん】今年は私たち1年生にとって初めての輝城祭でした。(略)文化部門の中で一番楽しかったことは、1年生の演劇です。私は声優をやりました。演劇の練習を始めたばかりの頃は、俳優の人とタイミングが合わなくて、演技と声を出すタイミングがずれてしまつたり、スラスラ読めなかつたり、いろいろな課題がありました。先生や友だちとも話し合つて何度も練習しました。そして、本番では感情を込めてスラスラとタイミング良く読むことができました。1年生みんなで力を合わせて演劇を成功させることができ良かったです。美術文芸部では、部員全員で作上げた特大絵を無事に披露できて良かったです。体育部門でやった競技は全部楽しかったです。特に、「背中渡り」は、クラスで一番多く練習した競技でした。本番で最高記録は出せなかつたけれど、今までに比べたらとても良い記録を出せたので嬉しかったです。(略)



【1B田中廉農さん】ぼくは輝城祭で学んだことがあります。(略)何を学んだかという、一番目は「助け合い」です。ぼくは学級旗の担当だったのでみんなと協力して描いたり、体育部門の練習で声をかけ合つたり、劇ではみんなで話し合い、教え合いながら劇をつくつたり、みんなで頑張る中で助け合いの大切さを感じました。二番目は「話し合い」です。みんなで話し合えば、たくさんの意見がでたり、新しいアイデアもでたりして、もっと良くなつたりするからです。みんなで話し合いながら考えることは大切だと思いました。三番目は「協力」です。

みんなで協力して頑張れば、良いタイムが出たり、良いものができたりして、良いことがたくさんあるからです。ぼくは、この輝城祭を通してたくさんのことを学び、楽しむことができました。とても良い行事になりました。この事を忘れずに、これからもがんばっていきたいです。

【2 A 望月大輝さん】今年の輝城祭は2回目でした。コロナで少し違った輝城祭になりましたが、全力で取り組むことができました。最初の体育部門では、練習通りにはできませんでしたが、失敗しても最後まであきらめずにできました。結果は2位。練習していく中で2 Aが一致団結していき、きずなが深まりました。体育部門の練習の時にみんなで真剣に話し合い、良い結果が出たときに喜び合った達成感を今でも覚えています。朝練習があって眠くて大変だったけれど、朝練習があったからこそ良い結果が出せ、クラスの絆が深まったんだと思います。クラスに関係なく競技している人を応援でき、学年としても成長できたと思います。(略)演劇では、僕は大道具の役割をしていて、背景の絵を運んでいるときに紙を破ってしまってみんなに迷惑をかけてしまいました。でもみんながゆるしてくれたのがうれしかったです。練習の時はミスがありました。本番ではミスもなく一番スムーズにできたと思います。今回の輝城祭では1年前よりも協力する場面が多くあり、大きな達成感を感じました。2 Aや学年のきずなが深まった今回の輝城祭を来年につなげ、もっと良いものにしたいです。



【2 A 古屋颯馬さん】今回で2回目の輝城祭だったので、昨年と比べ部門や学年の活動の中で「2年生として」ということを思うようになり、行動も変わりました。(略)オープニングでは3年生のすごさを見ることができました。ソーラン節を通して、3年生の在り方を教えてもらったような気がします。(略)体育部門では、当日に向けてそれぞれの種目の練習をしてきましたが、最初はまとまりがありませんでした。練習を続けていくうちに全員でがんばろうという意識が高まって、結果として2位になることができうれしかったです。学年発表で自分はエンドロールを作る担当になりました。最初は協力してできるのか不安な部分もありましたが、最終的にはあんなに良いものがつくれて良かったです。閉祭式で、流された映像とともに、今までの取り組みの中で練習や話し合いが思い出されてきました。来年は今年以上に練習や取り組みを大切にしていきたいと思いました。最後に、今年の3年生の行動を見て、「自分たちが来年あの姿にどれだけ近づけられるか」が一番大切なことだと思いました。これからの残り1年間がんばりたいです。



【2 B 前栗藏裕湮さん】第11回輝城祭は、午前の部と午後の部を入れ替えいつもとは違う形で行われました。最初のオープニングでは3年生の「ソーラン節」を見ました。とても迫力がありました。自分も3年生になったら、迫力のあるものを披露したいと思いました。オープニングの次は体育部門でした。様々な競技の中で「背中渡り」が一番印象に残りました。当日は走る人がけがをしてしまい、違う人が走りました。記録はダメだったけれどA組や他の学年にも応援してもらってすごくうれしかったです。体育部門の中で思ったことは、本当はクラスごと競い合うのに、自分のチームだけでなく他の学年も応援していたことに、自分すごく感動しました。自分たちのことだけでなく、他のチームにも関わっていて良かったと思います。学級の中でもしっかり励まし合ったり、褒め合ったりすることができ、テーマの「つながり」を意識できていたと思います。文化部門は3年生の演劇から始まりました。声の大きさや表現の仕方がすばらしく、さすが3年生だと思いました。2年生の演劇も、保坂先生も話していたように、練習よりも本番では声がしっかり出せていてとても良かったです。



(略)

【2 B 萩原音色さん】(略)オープニング、演劇、体育部門では、3年生の大きな背中を見せてもらいました。今の自分たちだと温度差がすごくあって、3年生のようにできないかもしれないと思うと、来年、自分たちの学年が3年生のように動けるか不安です。しかし、自分たちの学年は頑張ってくれる人たちが多いのでそこに期待しています。一番心に残っているのはクラス動画の作成です。みんなの意見が沢山ぶつかったりしてクラスの雰囲気が悪くなったからです。そうした時こそ、一人一人がどんな思いや気持ちを持っているかがわかるし、みんなの気持ちを一つにするチャンスだと思った



からです。次は音楽発表会があります。きっとそこでも私たちのクラスは何かにつづかっってしまうと思いますが、輝城祭の時以上に一人一人が全力で話し合いをしたいです。これらの行事が終わると3年生から様々なバトンを受け取らなければなりません。ですから気持ちを切り替え、すべてのことに全力を尽くすことを意識してがんばっていきたいです。輝城祭は少し残念な結果だったけれど、クラスのみならず誰一人、人を責めていませんでした。改めて2Bで良かったです。

【3A小泉迦生さん】夏休みが終わって（略）最初の土日はソーラン節の練習を行った。3年ぶりのソーラン節で、サビの部分は踊ることができたがそれ以外は全く踊れなかった。友だちに教わりながら練習し、抜けている部分はあったが2日間で何とか最後まで通せた。劇はスポットライトを担当した。（略）2週目。ソーラン節の練習が本格的に始まり、全体的に成長が早い人たちと成長が遅い人たちの差が目立ってきた。自分は成長が遅い方だったので実行委員が丁寧に教えてくれたが、それでも追いつけなかった。実行委員の人たちの時間を削ってしまい、本当に申し訳なく思い、家で練習を始めた。3週目。体育館が使用できる時間が増え、スポットライトの練習をしなければならないが、他のスポット役の人がいなかったり、機械が故障したりするなどのトラブルも発生した。ソーラン節の方もとても不安だったが、家で練習の甲斐があり、何とか踊れる人たちについて行くことができた。スポットライトの方も自分や他の人がカバーし合うことで最低限のことはできるようになった。本番。1回しか踊ることができないソーラン。自分ができる限界で踊ることができ、今までで一番みんなが一つになったと感じた。鳥肌がすごかった。体育部門。細かく書くことはできないけれど、なわとびや背中渡りでどちらとも何十回以上も失敗し、何十回も話し合い、改善することができた。楽しむことも忘れずに。総合優勝することができたときは喜びで一杯だった。（略）



【3A岡村咲祈さん】私は、第11回輝城祭では3年生でオープニングで「ソーラン節」を踊ったことが心に残りました。練習では、わかりやすくポイントをまとめて仲間同士で教え合ことを意識しました。仲間が教えた動きが上手になっていると、とてもうれしかったです。全体での練習が始まると、良い雰囲気が作れなかったり、教え合いの時に男女で分かれてしまったりする課題がありました。また、本番直前にも声小さくて迫力もないということもありました。でも、本番の日に「しっかり声を出してがんばろう」という声かけもあり、本番では今まででいちばん良いソーラン節を全員が全力でできたと思います。練習の過程からすると足りないところの方が多かったけれど、全力でがんばれたという達成感を感じることができたので良かったです。私はソーラン節の練習を通して、全員が同じ気持ちで取り組むことは難しいけれど、仲間の行動や一言で気持ちが変わったりすることはすごいと思いました。私も仲間とのつながり（助け合い）は大切だと感じたし、自分の課題もさらにわかったので、少しずつかもしれないけれど、今後につなげられるようにしたいです。（略）



【3B四條海翔さん】（略）自分は学年演劇の背景画の担当だった。最初は時間になっても取りかかりが遅かったり、だらけていたり、やる気のない人が多かった。ただ、作業は協力しながらできていたので、関わりはできていたように思う。ソーラン節も初めのうちは同じように自分も本気になれなかった。そして、数日前に話し合いになった。話し合いの中で、本気でやっている人が泣いてまで真剣になっているのを見て、自分が本気でなかったことを反省した。本気でやっている人のためにも真剣にやろうと思った。ただそれに気付くのが遅かった。このように輝城祭では沢山のことを学んだ。自分の中で大事にしたいと思ったことは、「日常の甘さが練習にもつながっているということ。どんなことでも日常が結果につながっているということ」「課題を考えるだけでなく、その課題を直そうと思って行動に移すことが大切だということ」これから高校受験など自分にとって大切なことがあるが、日常からいろいろなことを考えて行動していきたいし、周りにも伝えていきたい。



【3B望月紗菜さん】（略）私は体育部門の練習の時に、何度も全員で確認しながら新記録を出そうとみんなで本気になって取り組んだことが印象に残っています。そんなみんなの姿がすごく好きでした。中でも「背中渡り」では一番悔しい思いをしました。その悔しさは誰かのせいでは一切なく、練習をみんなで本気でやってきたからこそ感じられた悔しさでした。クラス全員が結果よりも過程を大切に、気持ちが一つになるのも感じることができました。この取り組みの中でつながりを感じることができ、成長する一歩になりました。また、私は取り組みの中でいろいろな人が頑張っている姿が心に残っています。体調が悪いのに輝城祭を成功させるために毎日取り組みを

頑張っていた人。多くの生徒が帰っても夜遅くまで準備で残っていた生徒会役員の人たち。気持ちが落ちている人にプラスの声かけをしていた人。私自身もソーラン節の練習で、周りに遅れている人がみんなに追いつこうと必死にがんばっている姿を見て、自分も人に教えられるようにと一生懸命練習し、仲間の役に立つことができたと思います。(略) 様々な出来事があった最後の輝城祭では、仲間とたくさん関わり合うことができ、本気になって取り組めた輝城祭でした。楽しむことや勝つことだけでなく、練習を大切に仲間とのつながりをつくる大切さを学んだ輝城祭でした。



## 選手たちへ熱いエール



運動部では、夏の県総体で3年生が引退し、1・2年生主体の新チームになって初めての公式戦「峡南地区新人体育大会」が10月7日(木)9日(土)に行われます。10月1日(金)の放課後、「新人戦激励会」を行いました。3年生全員と運動部に所属していない1・2生徒たちが、男女バスケットボール部、男女バレーボール部、男女ソフトテニス部、野球部の選手たちに心のこもった応援を行いました。野球部主将の佐野稜真さんが「新人戦を開催していただけることに感謝して、チームの仲間と協力して最後まで正々堂々とプレーすることを誓います。」と選手宣誓を述べ、各部のキャプテンが新人戦への決意を発表しました。南部中生徒としての誇りを胸に、精一杯戦ってほしいと思います。



に感謝して、チームの仲間と協力して最後まで正々堂々とプレーすることを誓います。」と選手宣誓を述べ、各部のキャプテンが新人戦への決意を発表しました。南部中生徒としての誇りを胸に、精一杯戦ってほしいと思います。

## 3名の教育実習生ががんばっています

9月27日から教育実習生が本校で実習を行っています。植田遥さん、遠藤麻衣さん、佐野葵さんの3名です。植田さんと遠藤さんは本校の卒業生で実家も町内です。佐野さんは旧中富中出身ですが野球のつながりで本校の複数の教員を知っていることもあって、本校で教育実習をすることになりました。3週間という短い期間ですが、3名の実習生には教員としての多くの体験を積んでもらうと共に、生徒たちには、歳の近い先生方との出会いを大切に、先生方から何かを学んだり、良い思い出をつくったりしてほしいと思います。



家庭科の佐野美佐子先生を通じて、本校に「おひさま家族」というDVDと2冊の本が寄贈されました。静岡県富士市に清麟太郎くん(りんくん)という17歳の少年がいます。りんくんは「色素性乾皮症」という日光に当たることができない難病にかかっています。この「おひさま家族」は、徐々に会話ができなくなったり、歩けなくなったりしていくのに明るく前向きに毎日を精一杯を生活しているりんくんと、そのご両親やご兄弟、おじいさん、おばあさんのドキュメンタリーです。命の尊さや家族の素晴らしさを教えてくれるお話です。万沢出身のりんくんのおばあさんがりんくんのことばを本にまとめました。それが「りんくんのうた」「りんくんとおひさまとしゃぼんだま」です。DVDと2冊の本は図書館にありますので、是非借りてみてください。

